

ブラジルだ！SAMBAだ！

翼で～す。ブラジルから、明けましておめでとうございます！今年もどうぞよろしくお願いいいたします。さて、Liberdade News 2度目の報告となりますが、今回は丁度1年前に僕がブラジルに足を踏み入れた時の、samba 初体験の話をしようかと思えます。日々もたらされる経験は常に新鮮なわけですが、それでも「初めて」というのは一生に一度しかないもので、その原点を思い返してみます。（注：上述したように carnaval 2005 シーズンの話です。）

感動の初体験

ブラジル、São Paulo に到着したのは2005年1月11日。Liberdadeの新年会の翌日が出発になるうとは思ってもせず、「いちいち」で縁起がよさそうなのであえてこの日を選んだわけですが、到着直後は、仕事の関係で、carnaval 直前なのに歩けなくて、一時はどうなることかと思いましたが、ともかくも、時間と自由を手に入れて初めて訪問した ensaio は Vai Vai. Barbaros のダンサーの方が ala de passista として出場するというので、また、自分を紹介してくれるということで、ensaio に一緒させてもらいました。



batucada がはじまって、「...!!!...!!!」なんというか...、なんなんだろう...。ブラジルにきたんだー！って...。涙がじんわり...。日本で、友人に誘われて見に行った samba パレードを間近にしたときの新鮮な感覚、Liberdade にはじめて出逢った時の新鮮な感覚、浅草にはじめて出たときの新鮮な感覚、そして、こんなに素晴らしい新鮮な感覚を手に入れるなんて！そんな歓喜の瞬間を味わいました。ビデオ撮影を頼まれていたのですが、調子に乗って bateria の真ん中まで突っ込んでいって（というか別に許可なんてもらってないんだけど）「なんたる世界だ...」と samba の神様を見たような感覚すらしました。楽器ひとつひとつが奏でる音、粒立ち、リズム、メロディー、そしてダンス。さらにそれらを支える comunidade。すべてが芸術なんだと思いました。そして、ビール片手に静かにリズムを感じている一般の人、この上なく熱い beijo（キス）をしているカップル、飛び跳ねている子ども達の姿、そういうものすべてが samba の織り成す芸術なんだと思いました。

さて、ensaio 終盤には ala de passista のエリアに入れてもらって、samba no pé でいざ勝負！みんな目を丸くしてるし、roda 作ってくれるし、ひとりひとり絡みに来てくれるし、何か変なやつか来たってのを純粋に楽しもうとしてくれる素敵なブラジル人達に囲まれて幸せな一時を過ごしました。

当時の自分は携帯も自宅の電話もなくって、São Paulo に滞在している日本の友人達と連絡をとるのが困難だったので、その後は、どこかの ensaio に行くにしても一人歩きがほとんど。ブラジルの夜道もはじめてだし、地理もポルトガル語もわからないし、勘だけでバスに乗りこみ、お金持っていないときなんて、帰りのタクシーすら使えないリスクを抱えながら歩き回っていました。次の日は仕事なのに...。今は知識もあるしへっちゃらなんだけど、当時はあれでよく行動できたな...、と思えてなりません。

そんなこんなで、他にもいくつかの escola を訪問できました。自分の体験とともに、以下に紹介します。

訪問した ESCOLA DE SAMBA

Camisa Verde e Branco



行き方も帰り方もわからずに奇跡的にたどり着いた escola です。評判通り bateria も素晴らしく、quadra 内はなんだか不健全な空気漂う素敵なおとこ。黒人系の多い独特な雰囲気。Mestre-Sala と Porta-Bandeira（以下、M.S./P.B.）が pavilhão（bandeira の敬称）を持って、Beijo を求めに来た時には、あまりの感動で正直、足がガタガタ震えて立っているのがやっとでした。

X-9 Paulistana



São Pauloの中でも大人気の escola です。samba enredo はいつもメロディーが優しく、心に響くような、「きゅん」とする感じの素晴らしいものでした。明るく爽やかで健やかな雰囲気のある comunidade。みんなとても感じのよい人達です。primeira P.B.とほんの少しだけ躍らせてもらいました。「何！？何！？何！？」な感じで、頭まっ白になってあんまり覚えていないんだけど。

Mocidade Alegre



carnaval 2004 のチャンピオン。実力と歴史のある escola です。友人がここで出場するというので、ensaio にご一緒させていただきました。老若男女が samba を純粋に楽しみ、それを表現し、また共有する。そんな comunidade の暖かさが印象的です。また、bateria は São Paulo No.1 だと思いました。paradinha のパリエーションも魅力なのですが、キメが細まかく安定している各パートのレベルの高さに感動し、また音の総合芸術を感じた瞬間でありました。この primeira P.B.には後々世話になることになりそうです。

Império de Casa Verde



現在の僕の所属 escola de samba です。地図を見たら、家の近所じゃん！と思い、足を運んでみたのが出会いです。quadra が他の escola に比べて豪華で、遊びに来ている人も何となく小綺麗な感じ。bateria は若者中心で、張りのある音を奏で、とても勢いがあります。「スマート」な escola というのが第一印象です。と同時に、「なんだかなあ...」と不思議と縁を感じた場所でした。結果論かもしれませんが、自分が関わっていく escola としてのインスピレーションが沸いたのは確かです。何にせよ、まさか carnaval 2005、優勝するとは思っていませんでした。

Torcida Jovem

2部リーグの escola。bateria は grupo especial の人が集まって編成されているようでした。primeiro M.S.がたまたま来ていなくて、primeira P.B.の練習相手になりました。気に入ってくれたみたいで、結局、夜中の路上のパレード練習にも付き合いました。近所の人やバスの乗客にパフォーマンスしたり、アットホームで楽しかったし、ブラジルに来て一番踊った日でした。

CARNAVAL 2005

色々な escola de samba で ala やスタッフとして、また Vai Vai では ala de passista として出ることを勧められたりもしましたが、外から carnaval を見たいという気持ちと、M.S.以外では嫌っ、という頑なな思い込みがあり、結局 sambódromo ですべての escola を観戦することにしました。雨がわんさか降って寒いし、朝までで長いから体力と気力が必要になるし、楽しむためには努力が必要なのね！と思いつつ、そんなことを自然とやっている周囲のブラジル人達を眺めながら、夢の一時を過ごしました。訪問した escola の samba enredo は頭にこびりついているので、特に楽しい。目の前に繰り広げられる初めてのブラジルのパレード、知り合いになった M.S./P.B.のパフォーマンス、日本から来た友人のパフォーマンス、色々な意味で本当に楽しい一時を過ごしました。来年はここで自分が出るんだって固く固く決心をしました。

語り尽くせない感謝

自分が escola de samba を訪問したときにまずしていたことは、M.S./P.B.と知り合いになって、電話番号をもらったりして、いつでもコンタクトをとれるようにすることでした。言葉も全くわからんちんだから、とりあえず自分は sambista なんだっていう証になる Liberdade での写真を握り締めて。それにしても、よくもまあ突っ込んで行ったものだ、今から考えると恥ずかしいものです。でも、そんな無茶苦茶で恐れ知らずな行動のおかげで今の自分の立場があるわけなんです。きちんとニコニコ対応してくれた彼らの素行、そして、日本人であっても M.S.として敬意を表していただき、また pavilhão への beijo を求めて下さったこと、そして時に、想像すらしていなかったような歓迎（つまり踊る場）を用意してくださったこと、限りない感謝をしています。

皆様の 2006 年の幸せを祈って... 翼